

明治14（1881）山形県新庄藩士済の長男として東京麻布森元町に生まれ、昭和41年（1966）死去、享年86才。明治41年（1908）東京大学農科大学農学科卒業後、宮省内省苑寮に入り、ついで奈良女子高等師範学校教授となった。大正4年明治神宮造営局の主任技師に迎えられ、大正12年神宮の内外苑の完成まで、その造苑を指導した。その間欧米各国に出張を命ぜられ、海外の都市計画及び造園を視察している。大正12年関東大震災後の復興事業には内務省復興局建築部公園課長（勅任技師）として昭和6年公園事業の完成まで勤務し退官した。昭和7年満州事変が勃発するや、大陸に勇飛し、満鉄及び関東軍の嘱託となって、大連、新京、奉天、吉林、哈尔滨の都市計画に参画した。この間また中国の開発を深め、昭和12年上海の都市計画、同16年青島の地方計画の立案のため、内務省都市計画局長松村光磨を説いて、内務省の技術陣（石川栄耀、桜井英記、井本政信、松井達夫、山田正男等）を誘致し、これらを完成せしめた。

終戦後は、一時青島特別市最高顧問として滞在したが、帰国後、建設省専門委員、国立公園委員会委員、横浜・奈良の建設委員会委員、国土計画審議会委員、東京・神奈川の都市計画審議会委員に任せられた他、道路公

団、住宅公団、宇部、豊橋、別府、下関、八幡各市の顧問として活躍した。晩年は主として明治神宮顧問として神宮の復旧及び維持に尽力せられた。

折下は早くから都市計画とその公園の重要性を説いていた。大正6年（1917）、都市計画協会の前身都市研究会が発足するや、その理事となり、同会の発会式には主講演として「都市計画と公園」を述べている。爾来門下の養成に力を注いできた。その功績は、第一に明治神宮内外苑の完成で、その成果は造園界のルネッサンスと称せられている。ついで関東大震災後の東京・横浜の五大公園の築造を行い、また、松本市及び京都西極運動場、広島比治山、長崎雲仙、会津若松鶴ヶ城、徳島眉山等の諸公園を設計し、さらに早くからゴルフ場の大衆化を提唱するなど幅広い活動をしていた。なお、東大農学部、千葉大の講師を勤める等、人材の養成にもつとめた。氏は決して人を叱責しない大人の風格をもった大人物であった。

